

鹿児島近海のボウズコンニャク, *Cubiceps squamiceps* (Lloyd)について

松井, 誠一
九州大学農学部水産学第二教室

<https://doi.org/10.15017/23241>

出版情報：九州大学農学部学藝雑誌. 32 (1), pp.1-7, 1977-08. 九州大学農学部
バージョン：
権利関係：



鹿児島近海のボウズコンニャク, *Cubiceps squamiceps* (Lloyd) について

松 井 誠 一

九州大学農学部水産学第二教室

(1976年12月23日受理)

Notes on the Nomeid Fish *Cubiceps squamiceps* (Lloyd) from the Sea near Kagoshima, Japan

SEIICHI MATSUI

Fisheries Laboratory, Faculty of Agriculture,
Kyushu University 46-04, Fukuoka 812

ボウズコンニャク *Cubiceps squamiceps* (Lloyd) は、南アフリカから日本の海域にかけて広範囲に分布するエボシダイ科の1種であるが、どの海域においても稀にしか獲られていない。日本近海の高知沖からは、岡田・松原 (1938) と Kamohara (1952) が *Mulichthys squamiceps* Lloyd として、Kamohara (1952) が *Cubiceps natalensis* Gilchrist and von Bonde として記録している。その後、松原 (1955) はこれらを同種として *Cubiceps squamiceps* (Lloyd) の学名を与えている。Haedrich (1967) は神奈川県真鶴沖からのもの、片山 (1976) は瀬戸内海の柳井沖からのものを *Cubiceps squamiceps* として報告しているが Abe (1959) や Линдберг и Красюкова (1975) は *C. squamiceps* を *C. gracilis* の幼型もしくは synonym としており、分類学的には混乱している。

筆者は鹿児島県の錦江湾内と枕崎沖から、21尾のボウズコンニャクと考えられる標本を得たので、詳細な形態上の測定を行うとともに、既往の報告に基づいて、*C. squamiceps* と *C. gracilis* の比較を検討した。

この研究の指導と原稿の校閲を頂いた九州大学農学部塚原博教授と有益な助言をされた木村清朗氏に心から感謝する。また、鹿児島大学の今井貞彦教授と小沢貴和講師には材料の一部の提供を受け、多くの助言も頂き、ここに謝意を表する。

測 定 材 料

鹿児島県には錦江湾から薩南海域にかけて、水深

200~400 m の深海を漁場とする機船底曳網漁業がある。この漁業はヒゲナガエビを主な漁獲対象としているが、同時に種々の魚類も混獲され、ボウズコンニャクも稀に獲れることがある。この研究に用いたボウズコンニャクの標本は、すべて機船底曳網漁業で獲れたエビの混獲物から採集したものである (Fig. 1)。

筆者は1975年7月9日と11月13日に鹿屋市の古江漁業協同組合の魚市場において9個体と同市場で鹿児島大学の今井貞彦教授が1972年9月4日に採集された6個体および鹿大の小沢貴和講師が機船底曳網の調査採集で1975年6月22日と9月15日に枕崎沖にて2個体、1975年10月26日と11月27日に垂水沖にて4個体採集されたものを本研究の測定材料とした。

漁業者の話では、本種が漁獲されることは少ないが8~10月に獲れる機会が多く、体長20 cm以上のものはみられないとのことである。今回、採集された個体もすべて体長20 cm以下であつた (Table 1)。

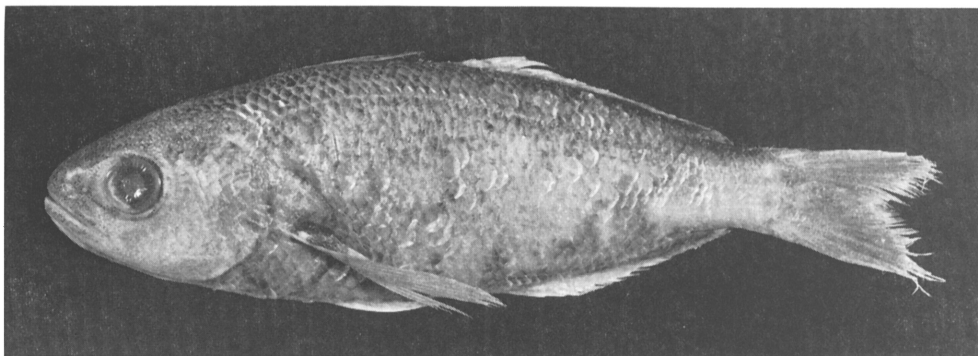
結 果

体形と体色

体は紡錘形で側扁する。吻端は丸く、その長さは水平眼径に等しい。眼はわずかに横扁し、大きく、頭長のほぼ1/4に等しい。鼻孔は吻端近くに2対開口する。口は小さいが上顎の後縁は眼の前縁下に達し、口を閉じると、上顎骨部は大きな涙骨の部分で覆われ、前上顎骨の前半が露出する。口を開くと、前上顎骨の全部と上顎骨部の後半が露われる。鰓膜は下方でつながっており、峡窄部とは離れている。鰓蓋は薄く、棘

Table 1. Measurements and counts

Specimen number	1	2	3	4	5	6	7	8	9
In mm									
Total length	207.5	201.0	199.0	195.3	187.8	187.2	185.2	184.4	178.1
Standard length	164.4	156.2	159.2	154.7	150.3	147.8	147.3	148.4	141.1
Body depth	54.4	53.0	48.5	50.0	49.3	45.8	42.2	44.8	46.3
Head length	53.5	51.1	49.1	50.0	48.9	50.3	47.7	46.5	44.7
Snout length	13.8	13.4	13.4	12.5	14.0	12.5	12.9	12.0	12.6
Upper jaw length	14.7	15.2	15.7	14.0	15.7	14.7	14.0	13.7	13.5
Lower jaw length	13.2	14.4	13.8	13.1	13.5	12.6	13.7	12.9	12.6
Interorbital width	17.1	16.8	16.0	15.5	15.6	15.1	14.8	14.3	14.9
Eye diameter	13.5	13.6	12.2	12.9	12.3	12.3	12.4	12.3	11.7
Caudal peduncle depth	16.7	17.2	17.2	16.5	17.8	15.7	13.7	15.6	15.7
Predorsal fin length	60.5	58.1	56.3	56.5	53.7	50.0	53.4	52.8	51.5
Preanal fin length	109.5	103.3	98.1	95.2	93.5	97.1	87.1	89.5	87.7
Preventral fin length	71.5	67.7	64.8	65.4	63.1	65.5	61.4	60.7	59.9
Pectoral fin length	53.6	51.5	50.0	49.2	48.0	47.3	45.3	45.9	46.9
Ventral fin length	29.1	27.8	25.0	28.1	26.4	25.1	25.0	23.8	24.0
In number									
Dorsal fin rays	XI- I, 19	XI- I, 19	X- II, 19	X- II, 19	XI- I, 18	XI- I, 19	X- I, 19	X- I, 19	XI- I, 19
Anal fin rays	III, 19	III, 18	III, 18	III, 18	II, 18	III, 18	III, 20	III, 18	III, 18
Ventral fin rays	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
Pectoral fin rays	18	20	17	17	18	19	17	17	19
Pored scales on L. 1.	50+8 =58	49+9 =58	51+10 =61	50+9 =59	48+8 =56	47+9 =56	50+11 =61	43+9 =52	46+7 =53
Scales above L. 1.	4	5	6	5	5	5	5	5	5
Scales below L. 1.	16	17	15	16	15	15	17	14	14
Gill rakers	8+16 =24	10+16 =26	10+17 =27	11+17 =28	10+18 =28	9+16 =25	11+18 =29	10+16 =26	10+16 =26
Vertebrae	16+15 =31	17+14 =31	16+15 =31	16+15 =31	16+15 =31	16+15 =31	16+15 =31	16+15 =31	16+15 =31
Body weight in gram	116.7	114.1	110.0	108.7	104.5	80.6	67.6	87.7	77.7
Sexuality	♀	♀	♂	♂	♂	♀	♂	♂	♂

Fig. 1. *Cubiceps squamiceps* (Lloyd), standard length 141 mm.

や突起はみられない。後頭部、頬部および鰓蓋部から尾柄部まで、脱落しやすい大型の薄い円鱗が覆い、小型の円鱗が眼の後縁部や喉部、および胸鰭と尾鰭の高さの $1/2 \sim 1/3$ を覆う。また第2背鰭と臀鰭には、高さの約 $3/4$ まで変形した円鱗がみられる。鱗にはいずれも2~3個の小孔があり、粘液を分泌していると思われる。側線は体高の $1/5 \sim 1/6$ の背部にあり、尾柄近くでは大きく彎曲して、やや中央を走る。第1背鰭

は細い棘条からなり、第5棘が最も長く、基底部前端は胸鰭起部のわずかに後方に位置する。第1背鰭の基底部には溝があり、すべての棘条をこの中に完全にたたみ込むことが出来る。第2背鰭は第1背鰭とわずかに離れ、その基底部前端は肛門部に位置し、小さな1棘(稀に2棘)と18~19軟条からなるが、第1軟条が最も長い。臀鰭は第2背鰭の第4~5条部に始まり、II~III, 17~20の鰭条のうち第1軟条が最も長い。

of *Cubiceps squamiceps* (Lloyd).

10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
178.1	176.2	175.1	174.6	173.1	172.8	170.5	170.5	169.8	169.6	168.0	118.6
138.0	143.4	137.9	138.7	137.1	137.6	139.8	131.3	136.9	132.6	130.9	88.7
46.0	46.5	43.5	39.2	44.0	44.7	42.4	42.3	42.4	43.2	44.3	27.6
47.9	46.9	47.2	45.2	45.8	46.4	47.3	43.5	44.4	44.4	45.9	30.6
12.9	12.2	12.6	12.4	12.4	12.0	12.0	11.5	11.2	11.7	12.6	8.0
14.2	14.5	13.7	13.5	13.6	14.1	12.9	12.9	12.5	13.1	13.1	7.9
13.5	13.7	12.7	11.0	12.4	13.2	10.7	11.8	11.7	12.3	12.9	7.4
15.7	15.3	15.3	14.3	14.4	13.8	14.9	13.8	13.4	13.1	13.4	9.5
12.2	12.6	11.7	12.0	12.2	12.9	12.1	11.7	12.6	11.9	13.0	9.3
16.0	15.9	16.1	15.7	15.8	15.5	15.0	14.4	14.6	13.1	13.8	9.0
53.5	51.7	51.3	49.7	48.8	53.4	49.0	46.6	49.3	51.5	45.3	30.6
94.6	89.5	87.8	87.0	86.3	87.5	85.2	81.3	87.6	83.1	82.1	55.9
62.4	60.5	58.7	59.0	57.1	58.3	57.5	55.7	57.2	56.2	59.8	38.2
44.2	45.2	44.4	43.0	46.1	44.3	46.1	46.7	43.6	45.5	42.1	29.2
24.1	25.0	24.3	23.1	21.9	22.5	21.2	22.9	23.2	23.0	24.5	18.5
XI- I, 19 III, 17 I, 5 17	XI- I, 18 III, 16 I, 5 16	XI- I, 19 III, 18 I, 5 16	XI- I, 19 III, 18 I, 5 20	XI- I, 19 III, 18 I, 5 17	XI- I, 18 III, 18 I, 5 16	XI- I, 18 III, 17 I, 5 19	XI- I, 19 III, 18 I, 5 19	XI- I, 19 III, 19 I, 5 17	XI- I, 18 III, 18 I, 5 18	XI- I, 18 III, 18 I, 5 19	XI- I, 19 III, 19 I, 5 16
49+ 9 =58 4 13	53+ 9 =62 5 15	50+10 =60 5 14	50+ 9 =59 5 17	49+ 8 =57 5 13	44+ 8 =52 4 13	47+ 8 =55 5 16	47+ 9 =56 4 14	43+ 8 =51 4 14	47+ 9 =56 4 14	44+ 8 =52 4 14	49+ 9 =58 5 18
9+16 =25 16+15 =31	9+16 =25 16+15 =31	8+15 =23 16+15 =31	10+16 =26 16+15 =31	10+17 =27 16+15 =31	9+17 =26 16+14 =30	10+17 =27 16+14 =30	8+16 =24 16+15 =31	8+15 =23 16+15 =31	9+15 =24 16+15 =31	9+16 =25 16+15 =31	11+18 =29 15+16 =31
77.2 ♂	73.3 ♂	67.7 ♂	68.5 ♂	67.8 ♂	70.0 ♂	68.4 ♂	61.0 ♂	61.8 ♂	62.8 ♂	52.5 ♂	16.5 ♂

尾鰭は、上葉と下葉の基底部が重なり合い、中央部で交叉する (Fig. 2)。重なり合いの長さは尾柄高比で 24~48% で、成長に伴って大きくなる傾向がみられ、尾鰭を背方からみると、すべての個体で上葉が右側、下葉が左側に位置する。胸鰭は非常に長く、その後端は第 2 背鰭の第 3~4 軟条部に達する。腹鰭は、胸鰭基底の後端部に起部があり、鰭条の後端は肛門に達する。腹鰭基底の後端から肛門にかけて浅い溝があり、この中に腹鰭を折りたたむことが出来る。

体は一般に黒褐色で、頭部、背部および尾鰭は特に黒ずみ、口唇弁、舌、口腔、咽頭部および鰓蓋の内面は、さらに黒色を呈する。第 1 背鰭と腹鰭の鰭膜も黒褐色で第 2 背鰭と臀鰭の基底部は褐色を呈する。

体部比

体の各部位の体長に対する百分率は、その平均値と () 内に最低と最高値を示した。

体高 (第 1 と第 2 背鰭起部のほぼ中央) 32.3 (29.3~34.3), 体幅 (頭部後端の後方) 8.9 (7.7~9.8), 尾柄高 10.9 (9.3~11.8), 頭長 33.0 (30.8~35.1), 水平眼径 8.7 (7.7~10.5), 垂直眼径 8.2 (7.4~

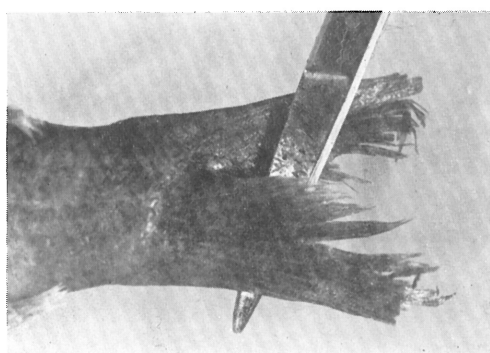


Fig. 2. Caudal parts of *Cubiceps squamiceps* (Lloyd), showing the partial overlapping of the upper and lower lobes of caudal fin.

9.9), 吻長 8.7 (8.1~9.6), 眼隔 10.4 (9.6~11.4), 肛門前長 (吻端~肛門) 58.4 (55.7~61.9), 臀鰭前長 (吻端~臀鰭基底前端) 62.9 (59.1~66.6), 腹鰭前長 (吻端~腹鰭基底前端) 42.6 (40.7~45.7), 背鰭前長 (吻端~背鰭基底前端) 36.2 (33.8~37.2), 上顎長 9.7 (8.8~10.3), 下顎長 8.9 (7.7~9.8),

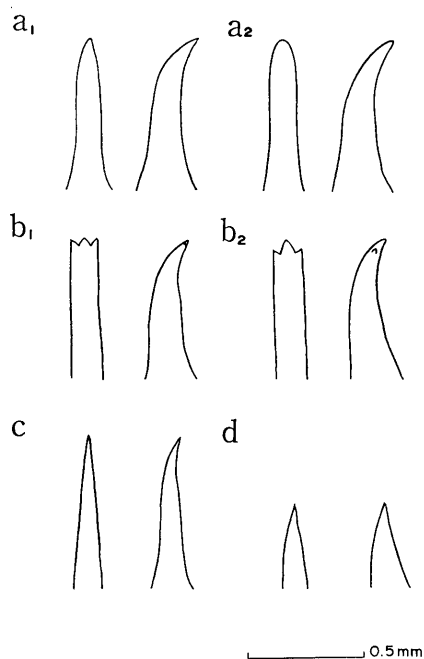


Fig. 3. Teeth on jaws, vomer, palatine and tongue. Right is frontal view and left is left side of view. a_1 , tooth of anterior parts on upper jaw; a_2 , tooth of posterior parts on upper jaw; b_1 , tooth of anterior parts on lower jaw; b_2 , tooth of posterior parts on lower jaw; c, tooth on vomer and palatine; d, tooth on tongue.

胸鰭長 32.4 (30.8~35.6), 腹鰭長 17.2 (15.2~20.9), 第1背鰭基底長 22.0 (20.4~23.9), 第2背鰭基底長 35.9 (33.3~38.2), 臀鰭基底長 31.6 (29.9~34.8).

これらの値のうち、頭長と水平および垂直眼径は、体長増加に伴って小さくなる傾向がみられるが、その他の部位では一定傾向はなかった。

計数形質

背鰭条数は $X \sim XI - I \sim II$, 18~19 であり、ほとんどの個体が $XI - I$, 19, 臀鰭条数は $II \sim III$, 16~20 であり、その過半数の個体が III , 18 であった。腹鰭条数は I , 5 であり、胸鰭条数は 16~20 である。有孔側線鱗数は 51~62 で、ほとんどが 60 以下であり、脊椎骨数は 15~17 (腹椎) + 14~16 (尾椎) = 30~31 で、ほとんどの個体が 16+15 であった。第1鰓弓の鰓耙数は 8~11+15~18=23~29 である。

内部形態

両顎の内側には大きな口唇弁を有し、歯は両顎、鋤

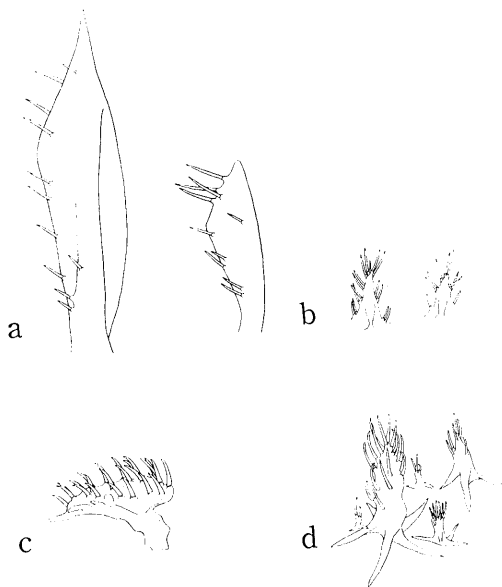


Fig. 4. Gill rakers and papillae in the pharyngeal sacs. a, gill rakers on the front row of the 1st gill arch; b, gill rakers on the back row of the 1st gill arch; c, d, papillae in the pharyngeal sacs.

骨、口蓋骨および舌にみられる。両顎には1列の小さな犬歯状の歯があり、部位によって形が異なる (Fig. 3)。すなわち、上顎の中央歯は1尖頭形であるが、下顎では3尖頭形であり、それぞれ、後方部の歯になるに従い、上顎歯は先端が丸くなり、下顎歯は3尖頭の中央の尖頭が大きくなる。鋤骨、口蓋骨および舌には1~2列の小さな円錐形の歯があり、部位によつての形態的变化はない。

鰓耙は前列に比して後列が短く、表面には棘がみられ、第1鰓弓には各々 10~20 棘がある (Fig. 4 a, b)。擬鰓はよく発達する。

咽頭部の直後には、ヒトの腎臓形をした相称囊の極めて厚い筋肉壁からなる食道囊があり、この内腔は相互に通じた2室に分かれている。左右の囊の内面には各々 6~10 条の肉質の隆起が放射状に並ぶ。隆起上部には棘状の歯が、角質基底の上面に関節をもつて密生し (Fig. 4 c), 隆起の側面と各隆起の間には角質柱状部が埋没し、表面には多数の棘状歯が関節をもつて密生する。角質柱状部の埋没部には、3~7本の尾状に延びた脚根があり、多数の柱状部から出たもので、縦横に入り混っている (Fig. 4 d)。左右の囊の境界部には棘状の食道歯がない。

尾部の骨格は Fig. 5 に示した。一般にスズキ型魚類の下尾軸骨は6個であるが、本種は第2と第3が、第4と第5が融合し、4個の下尾軸骨、3個の上尾軸骨および2個の尾神経骨をもつ。

消化管は長く、体長の1.5~2.0倍で、胃は大きくV型である。食性を明らかにするため、消化管内容物を観察した。胃は内容物が充満し、その大部分は腔腸動物の体の一部で、稀に端脚類やエビおよびカニの幼生も認められたが、腸管には摂食物はなかった。

生殖巣によつて雌雄を判別したが、21尾中、3尾が雌で、性比に偏りがみられた。卵巣は右より左がわずかに大きく、卵径0.05~0.6mmの卵粒が認められる。7, 9, 11月と月を経るに従つて、卵巣内卵の卵径が大きくなると同時に放卵後の卵巣をもつ個体も出現する傾向があり、11月頃に産卵すると考えられる。

生息場所

錦江湾内における本種の獲れる海域は、湾の最深部の鹿屋沖から垂水沖の水深200~250mの底層で、田ノ上(1955)によれば底層の年間水温は $15.5 \pm 0.3^{\circ}\text{C}$ 、その底質は軟泥である。湾外において漁獲される場所は、枕崎と黒島および硫黄島とのほぼ中間の水深300~400mの底層で、鹿児島県水産試験場(1975)によると年間水温は、水深300mで $11.5 \pm 0.8^{\circ}\text{C}$ である。

Lloyd(1909)はアラビア海の水深900m、岡田・松原(1938)は高知沖の深海、Smith(1949)はナタール沖の水深300~500m、蒲原(1950)は高知沖の深海から本種を採集していることからみて、本種は200m以深の水温 16°C 以下で年間変動の少ない深海を主な生息場所としていると考えられる。

論 議

エボシダイ科魚類は、両顎のほかに鋤骨、口蓋骨、咽舌骨および基鋤骨に小歯があり、食道囊があること尾柄高の体長比が5%以上で、背鰭と臀鰭が各々15条以上という特徴をもっている。さらに、Haedrich(1972)によると脊椎骨数15+16、背鰭軟条19~21、臀鰭軟条18~21で、胸鰭条数が18~21の特徴をもつものは*Cubiceps squamiceps*(Lloyd)であり、今回の標本がこれらの特徴とほぼ一致することから*C. squamiceps*と同定した。

しかし、Abe(1959)は*C. squamiceps*が*C. gracilis*の幼型であるとし、Линдберг и Красюкова(1975)は*C. gracilis*のsynonymとしているが、両種の詳細な比較はなく、*C. squamiceps*が*C. gra-*

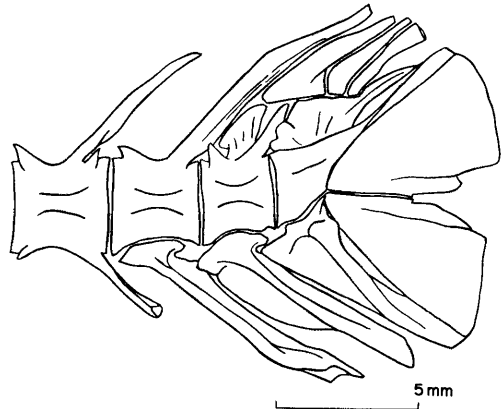


Fig. 5. Caudal skeleton of *Cubiceps squamiceps* (Lloyd).

cilis の synonym とする根拠はない。

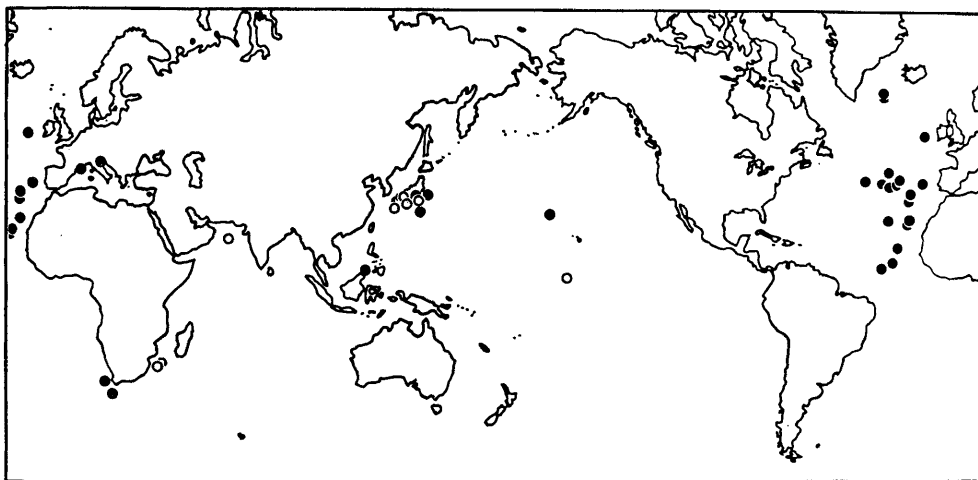
そこで両種を比較するため、既往の報告より計数形質を纏めた(Table 2)。これによれば、背鰭条数においては、軟条部でわずかな重複があるものの、*C. squamiceps*より*C. gracilis*の方が多く、臀鰭条数についても同様の傾向がみられる。また、胸鰭条数では*C. gracilis*の20~25は、*C. squamiceps*の18~20に比べて明らかに多く、有孔側線鱗数でも60~69と50~55で明確な違いがある。脊椎骨数について、Abe(1955)は*C. gracilis*が12+19=31としているが、Haedrich(1967)は*C. gracilis*15+18=33、*C. squamiceps*15+16=31と、その違いを明示し、Ahlstrom et al.(1976)はエボシダイ科で*C. gracilis*のみが33~34と報告している。

各部の体長比は、*C. gracilis*についてAbe(1955)、Kamohara(1952)、Tortonese(1968)、Haedrich(1972)およびТрунов(1975)の報告をまとめると、体高23.5~31.0%、頭長26.8~32.3%、眼径5.7~9.6%、吻長6.0~10.0%、眼隔7.8~10.6%、尾柄高7.0~10.0%である。しかし、*C. squamiceps*では、Kamohara(1952)によると体高31.3~35.7%、頭長31.3~35.7%、眼径7.6~9.9%、吻長6.9~8.9%、眼隔9.8~10.8%、尾柄高10.0~11.1%で、大部分の形質において*C. squamiceps*の方が大きく、特に体高と尾柄高は、その傾向が顕著であつた。

両種の採集場所について、既往の報告を纏めてみると、*C. gracilis*は大西洋、地中海および太平洋に、*C. squamiceps*はインド洋と太平洋に分布し、両種の出現する海域もあるが、分布の違いが認められる(Fig. 6)。

Table 2. Meristic counts of *Cubiceps gracilis* (Lowe) and *C. squamiceps* (Lloyd).

	Dorsal fin	Anal fin	Pectoral fin	Vertebrae	Scales of L. 1.
<i>Cubiceps gracilis</i> (Lowe)					
Lowe (1843)	IX—III, 20	III, 20	24		60
Smith (1949)	X—XI—I, 20~24	II~III, 19~21			65
Herre and Herald (1950)	XI—I, 22	III, 20~22			66
Abe (1955)	XI—I, 20	III, 20	21~22	12+19	65~69
Tortonese (1968)	XI—I, 23	III, 22	23		ca.60
Haedrich (1967)	IX~XI—I~II, 20~22	II~III, 20~23	20~24	15+18~19	
Haedrich (1972)	XI, 22~23	III, 20~21	22~24	15+17~18	60~62
Трунов (1975)	IX~X—II, 21~24	III, 20~22	22~25		64~67
<i>Cubiceps squamiceps</i> (Lloyd)					
Lloyd (1909)	X, 20	III, 20	19		53
Smith (1949)	(IX~)XI—I, 20	III, 20			50~53
Kamohara (1952)	XI—I, 19	III, 18	20		55
Kamohara (1952)*	XI—I, 20	III, 20			ca.55
Haedrich (1967)	IX~XI—I~II, 19~21	II~III, 18~21	18~20	15+16	
<i>Cubiceps squamiceps</i> (present specimens)	X~XI—I~II, 18~20	II~III, 17~20	16~20	15~17+14~16	51~62

* *Cubiceps natalensis* Gilchrist and von BondeFig. 6. Locations where *Cubiceps squamiceps* (opened circle) and *C. gracilis* (closed circle) were collected.

以上、両種を比較するために引用した報告の体長は *C. gracilis* で 5~1,075 mm, *C. squamiceps* で 84~264 mm で, *C. squamiceps* が *C. gracilis* の幼型であるとは考えられない。

筆者は尾鰭の上葉と下葉基部の特異な重なり合いを認めたが、尾部骨格には特別な構造はみられなかった。しかし両葉の内側の下尾軸骨が後半部で上下に離れ、鰭条基部も互いに著しく分離し、上葉内側の2~3本の鰭条が下葉方向に、下葉のものは上葉方向に延びていることと、さらに成長に伴い、重なり合いの程度が大きくなることが特徴的で他の魚類では認められない特徴である。

文 献

- Abe, T. 1955 Notes on the adult of *Cubiceps gracilis* from the western Pacific. *J. Oceanogr. Soc. Japan*, 11 : 75-80
- Abe, T. 1959 On the presence of at least two species of *Cubiceps* (Nomeidae, Pisces) in the path of the "Kuro-Shiwo." *Rec. Oceanogr. Works, Japan*, Spec. No. 3 : 225-229
- Ahlstrom, E. H., J. L. Butler and B. Y. Sumida 1976 Pelagic stromateoid fishes (Pisces, Perciformes) of the eastern Pacific: Kinds, distributions, and early life histories and observations on five of these from the north-

- west Atlantic. *Bull. Mar. Sci.*, **26** : 285-402
- Haedrich, R. L. 1967 The stromateoid fishes : systematics and a classification. *Bull. Mus. Comp. Zool. Harvard Univ.*, **135** : 31-139
- Haedrich, R. L. 1972 Ergebnisse der Forschungsreisen des FFS 'Walther Herwig' nach Südamerika XXIII. Fishes of the family Nomeidae (Perciformes, Stromateoidei). *Arch. Fischereiwiss.*, **23** : 73-88
- Haedrich, R. L. and M. H. Horn 1972 A key to the stromateoid fishes (Unpublished manuscript). *Woods Hole Oceanogr. Inst.*, WHOI-72-15 : 1-46
- Herre, A. W. and E. S. Herald 1950 Note-worthy additions to the Philippine fish fauna with descriptions of a new genus and species. *Philippine J. Sci.*, **79** : 309-340
- 鹿兒島県水産試験場 1975 沖合定線観測資料 昭和49年度. 鹿兒島県水産試験場事業報告書, 2-25
- 蒲原稔治 1950 土佐および紀州の魚類. 高知県文教協会, 高知, 108-109頁
- Kamohara, T. 1952 Revised descriptions of the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Shikoku, Japan. *Rep. Kochi Univ.*, Nat. Sci., No. 3 : 1-122
- 片山正夫 1976 山口県の自然の現状. 山口県自然研究会, 山口, 113頁
- Линдберг, Г. У. и З. В. Красюкова 1975 Рыбы Японского моря и сопредельных частей Охотского и Желтого морей. Издательство "Наука," Ленинградское Отделение, **4** : 315-316
- Lloyd, R. E. 1909 A description of the deep-sea fish caught by the R. I. M. S. ship "Investigator" since the year 1900, with supposed evidence of mutation in *Malthopsis*. *Mem. Indian Mus. Calcutta*, **2** : 139-180
- Lowe, R. T. 1843 Notices of fishes newly observed or discovered in Madeira during the years 1840, 1841, and 1842. *Proc. Zool. Soc. London*, **11** : 81-95
- 松原喜代松 1955 魚類の形態と検索. 石崎書店, 東京, 579頁
- 岡田弥一郎・松原喜代松 1938 日本産魚類検索. 三省堂, 東京. 159頁
- Smith, J. L. B. 1949 On the stromateid fishes of South Africa. *Ann. Mag. Nat. His.*, Ser., **12**, **2** : 839-851
- 田ノ上豊隆 1955 鹿兒島湾に於ける水温の年変化の調和分析. 鹿大水産紀要, **4** : 12-19
- Tortonese, E. 1968 Prima cattura di *Cubiceps gracilis* (Lowe) nel mare Adriatico (Pisces Perciformes). *Atti. Mus. Civ. Str. Nat. Trieste*, **26** : 29-30
- Трунов, И. А. 1975 Заметки о рыбах подотряда Stromateoidei юговосточной Атлантики. Вопросы Ихтиологии, **15** : 390-401

Summary

Cubiceps squamiceps (Lloyd) has been recorded only from Kochi, Oase, Manazuru and Yanai in the adjacent waters of Japan. I collected samples of *Cubiceps* at Furue fish market, Kagoshima. They were taken by Japanese danish seine off Furue situated in the Kinko Bay and afterwards I could collect the same species from the outside of its bay.

Abe (1959) suggested *C. squamiceps* is the young of *C. gracilis*, and Линдберг и Красюкова (1975) considered that *C. squamiceps* is a synonym of *C. gracilis*. But judging from meristic characters (the numbers of pored scales on lateral line, pectoral, dorsal and anal fin rays, and vertebrae) and proportional measurements (body depth, head length and caudal peduncle depth), *Cubiceps squamiceps* is regarded distinct species from *C. gracilis*. I identified above-mentioned samples with *Cubiceps squamiceps*.

It seems *C. squamiceps* and *C. gracilis* are partially different in distributions, namely, the former distributes in the Indian and Pacific Oceans, the latter in the Mediterranean, Atlantic and Pacific Oceans.

I recognized a remarkable character about the caudal fin, that is, at the parts of bases of lobes, upper and lower lobes of caudal fin overlapped one another, and situated at the sides of right and left, respectively.